

金婚夫婦インタビュー

— 連れ添って半世紀 —



本会では、今年も敬老会で金婚（結婚50年）を迎えられた御夫婦をお祝いし、記念品を贈らせていただきました。その中から柳生（北川辺地域）にお住いの三浦純一さん（76歳）勝子さん（77歳）ご夫婦に結婚されてから今までを振り返っていただきました。（インタビューと構成は編集部）

■金婚を迎えられての率直な感想は

純一 60歳の定年を迎えるまで夢中で働いてきました。今は健康で二人でいることが出来て良かったと思います。

勝子 今は、私は生け花や編み物などをし、夫は竹絵や魚釣り、健康麻雀などの趣味活動がいろいろとできて平穏な日々が過ごせています。

■お二人の出会い、結婚の決め手は

純一 昭和38年から定年まで加須市内にある建設会社に勤めていました。その職場の近くに食堂を営んでいる妻の実家があり、そこで知り合いました。

勝子 夫は戦争で父を亡くし、母と二人で苦労をしながら厳しく育てられてきたのは結婚前から分かりました。義母は私にはとても優しく

接していただいたので、その義母を安心させた気持ちもあって結婚しました。

■結婚後の生活は

純一 結婚後は、北川辺で母と妻と一緒に生活を始めました。埼玉国体が行われる前の高度成長期で、公共施設の建設や道路整備などの仕事をしていたため、昼夜関係なく働く不規則な生活でした。その中で母や妻が支えてくれました。

勝子 私は結婚後も仕事を続けました。フジッコ（株）関東工場が北川辺にできた時から勤め、義母の介護が必要になり、定年前に退職をしました。働いている間は、義母が二人の娘の面倒を見てくれました。義母の介護は3、4年続きましたが、大変なことは特にはありませんでした。認知症の症状はありましたが、会話もできて、デイサービスなどの介護サービスも利用していました。その後は娘も独立し、夫婦で自由な時間ができ、趣味活動をしています。

■50年間で、一番つらかったこと

純一 振り返ってもつらいことはあまりなかったと思います。仕事一筋で、家族とあまり出掛けることが少なかったと思いますが、なるべく一緒にいる時間を作りました。

■50年間で一番うれしいことは

純一 人に迷惑をかけることなく、自由に生活をしています。孫も5人いて、それぞれ自分の道を進んでいます。今はとてもいい日々を送っています。

■長年、仲良くできる秘訣は

純一 それぞれが趣味を持って自分の時間を大切にしていることかと思えます。私は、自分でも料理をしますし、買い物にも行きます。

勝子 夫は夕飯の買い物なども自分で行きますし、私が欲しいと思っている食材をちゃんと買ってきてくれます。ケンカはしません。お互い腹が立つこともありませんが、長いこと一緒にいるので、相手が考えていることが分かります。

■ご夫婦は様々な趣味を持ち、今ではご友人に教えたり、教わったり毎日何かしらの予定が入っている忙しい日々を送っています。それぞれが自分の時間を持ちながら夫婦の時間も大切にされている様子がうかがえました。貴重なお話ありがとうございました。

※竹絵とは：竹を使って絵を描くもの。厚さ1ミリぐらいの竹板を張り重ねることにより、絵が盛り上がり立体的になるのが特徴。



純一さんの趣味の竹絵の作品です。



勝子さんの趣味の手編みの作品です。